

[授業改善] 道徳の時間と技術・家庭科を関連させた授業実践

担任の「道徳の時間」の指導略案

道徳学習指導案

(1) ねらい 内容項目 4－(6)

家族と自分のかかわりや自分自身を見つめ直すことによって、家族への敬愛の念を深め、家族の一員としての自覚をもつ。

(2) 準備

心のノート、資料

(3) 展開

学習活動	時間	○学習活動への支援 ※ ◎T 1 ●T 2（道徳教育推進教師）
1「自分アンケート」を行い、その結果について考える。 自分を見つめるために、「自分アンケート」をして、結果を発表しよう。	5 分	○日頃の家族とのかかわりを思い返させることにより、親に対して依存している自分を自覚できるように 1 日の生活を振り返らせる。 ◎結果を発表させる。 ●自分アンケートを拡大掲示し、黒板に数を書く ◎黒板掲示の数についての補助発問を行う。 ●つぶやきも含めて生徒の声を板書する。 予想される生徒の反応 ・みんな同じだ ・思ったより反抗してるな ・反抗期だ ・親の注意はうるさいよね ・本当にいらいらするよ ・態度に出ることはよくある 約束は守るよね ・よい子もいるね
2 家族の注意に対して、どのように感じているか、考える。 家族からどのような注意を受けたか、またその時、どのような気持ちになったか、考えよう。	10 分	○日頃の家族とのかかわりを思い返し、親に対して反抗してしまう自分を自覚できるように、思い当たることを振り返らせる。 ◎ワークシートに、注意された具体的な言葉について、素直に感じたことを記入できるように補助発問を行う。また、机間指導を行い、具体的に書かれているか、素直に書かれているか助言する。 予想される生徒の反応 ・もっと勉強しなさい ・早く寝なさい ・テレビを消しなさい ・早くしなさい ・やることをすぐやりなさい ・とてもうるさい ・うるさいけど仕方がない ・仕方がない ・早くしているのに ・いつやってもいいのに ◎記入した内容を指名して発表させ、わかりやすいように板書する。 ●板書をサポートする。 ◎親の立場で板書を読み上げる。 ●子どもの立場になって反応をする。
3 心のノート p112～p113 の文章を読み、「ごめんね、あのころ」について考える。 ○誰が、いつ思ったのか考える。 「ごめんね、あのころ」という思は誰が、いつ思ったと考えますか。	25 分	◎p 112～p 113 を朗読し、さらに一読するように指示する。 ○「ごめんね、あのころ」について、誰がいつ思ったのか、p112 の絵と p 113 の 1 つ席が空いている絵を対比させて考えられるように支援する。 ◎「家族だからこそ」の後にどんな言葉がつながるか、補助発問を行いねらいに迫る。 ●机間指導を行い助言をする。 予想される生徒の反応

○なぜ、「ごめんね」と思ったのか、考える。 なぜ、「ごめんね」と誰に対して、なぜ思ったのですか、その理由を考えよう。		・作者 ・絵の中の女の子 ・みんな ・親 ・高校生くらいの時 ・大人になって ・自分が家庭をもったとき ・最近 ○謝っている理由について、p112 の絵を参考にして考えることができるよう支援する。 ◎「何を後悔をしているのか」について、意識できるように補助発問をする。 ●机間指導を行い、考えられない生徒を支援する。 予想される生徒の反応 ・両親に対して、ひねくれていたから ・親に対して、いじめていたから ・親に対して、反抗してしまったから ○「反抗することは当然のことだから、「謝る必要がないじゃないの」という補助発問を行い葛藤させることを通して、主題に迫れるようする。 ◎誰に対してが「両親」「家族」になるよう、方向付けができるような補助発問を行う。
4 家族の思いについて考える。 ○家族は自分に何を望んでいると思うか、考える。 家族はあなたに何を望んでいると思いますか、考えよう。	10 分	○家族の思いについて考えることを通して、家族の思いを見つめ、自分自身を振り返ることができるようにする。 ◎自分を見つめることをねらうため、補助発問は行わない。 ●ワークシートに記入された答えの中で本授業の価値にかかわるものを机間指導によって把握し、T1 と検討の上、板書する。 予想される生徒の反応 ・勉強して欲しい ・きちんとして欲しい ・良い子になって欲しい ・立派に成長して欲しい ・幸せになって欲しい ・言うことを聞いて欲しい

技術・家庭科学習指導案の略案

技術・家庭科「中学生にとっての家族を考えよう」

本時の学習 ◇吹き出しは授業後に行った道徳教育推進教師の支援

(1) ねらい 自分の家庭生活に関心をもち、家族の生活や気持ちを考えることができる。また、家族とのかかわり方をよりよくする方法を考えることができる。

(2) 準備・資料 道徳のアンケート資料、教科書、ノート、プリント

学習活動	時間	○支援・指導上の留意点	評価項目・方法
1、本時の目標を知る。 アンケート結果を見たあとのつぶやきを拾ってもよいのでは？	5 分	※◎T 1 ●T 2 (道徳教育推進教師) ○道徳の時間の資料を確認し、本時の目標を確認する。 ◎本時の目標を板書する。 ●道徳の時間の「自分アンケート」結果を抜粋して、グラフにして掲示し、補足説明をする。	
2、教科書P. 174 の導入課題に取り組み、プリントにまとめる。	10 分	○自分の生活の中から、いろいろな例を思い出させる。 ◎日頃の生活を振り返ることができるような補助発問を行う。 ◎●机間指導を行い、書けない生徒に助	

できなかった事例例えば「ゲーセンに行きたい」「できなかった」等を1つ取り上げてもいいのでは？		言する。 ○家族の気持ちを考えさせる。 ◎家族の子どもへのどんな思いからの対応かなるべく客観的に考えさせる。 ●板書をサポートする。 ○あえて発表はさせない。	補助発問の例「家族ってすべてみんなの考えに賛成しないよね。何故かな？」
3、家族の対応や気持ちを踏まえて家庭のはたらきについて知る。	5分	○家族のもつ子どもを生み育てる機能や、心の安らぎを与える精神的な機能に気づかせる。 ◎全員に教科書を読ませる。 ●机間指導を行い、教科書に集中させる。 ◎書いてある内容についての簡単にまとめる。	ロールプレイングの提案 机を外して、椅子のみで2人1組で①おかずバージョンと②部屋掃除バージョンを30秒で親と子の立場を交換して、1分で1組終わらせ、次の活動にうつる。反抗的という中学生のパーソナリティを作る。
4、教科書P. 176 の実習例を参考にして、場面を想像し、ロールプレイングを行うことを通して、感想を書く。	20分	○ワークシートの1を読みせ、その人物になったつもりで、ワークシートの「」に場面に応じた対応を書かせる。 ◎●机間指導を行い、書けない生徒に助言を行う。 ○プリントの台詞の続きも考えながら、グループでロールプレイング行わせ、感想をまとめさせる ◎家族の立場を考えさせる補助発問を行う。 ◎●机間指導を行い、活動を支援し、T1とT2で班ごとに分担し、その様子を見取る。※T1・1班～5班、T2・6班～9班 ○教科書P. 177・1表と教科書P. 183を参考にして考えさせる。 ◎教科書P. 183を範読する。	〈知識・理解〉 ロールプレイングをとおして家族の立場や気持ちがわかったか。 (プリントの記述、活動内容) ここが1番大切な所なので、親の立場の時の気持ち、子どもの立場の時の気持ちを分けて、発表させてワークシートに記入するのがいいのでは？
5、家族の人間関係をよりよくする方法についてプリントにまとめる。	10分	○中学生として、どのように家族とかわっていくとよいかを考えさせる。 ◎家族との過ごし方や、家族間のマナーについて、日ごろの自分の態度を振り返らせ、これからどうしていったらよいかを考えさせる補助発問を行う。 ◎●机間指導を行い、書けない生徒に助言を行う。	〈工夫・創造〉 自分の立場を自覚し、よりよい家族関係を築くにはどうしたらよいかを考えることができたか。 (プリントの記述内容)

